

〈日本の谚语〉衣锦还乡

“衣锦还乡”（又曰荣归故里）是表示“出人头地荣归故里”的谚语。对被期待着在日本学习技术和技能等后、回到祖国把学到的知识发挥出来大显身手的研修生、技能实习生来说，这是最恰当不过的谚语。

织锦是用各种颜色的丝线编织的底色和花样的织物，京都传统的织物“西阵织”（日语译音：拟喜金屋里）的和服的带子就是代表性织物。美丽豪华的织物“织锦”转为比喻美丽出色之物体的词汇，如果说“红叶织锦”则指一片红叶景色，“锦缎缠身”不一定意指身穿织锦，而意味着“穿着华美的服装”。

“衣锦还乡”意味着“身穿织锦和服荣归故里”而转为“成功归来”。它不是仅仅表示穿着高价衣服回来或腰缠万贯回来。这个谚语常用于高中棒球队取得出席甲子园（全国高中棒球）锦标赛，获得冠军回到母校时，大相扑力士在本地巡回演出之际大显身手之时，功成名就的人用亲自得到的财产在故乡修建医院、为家境不好的人捐献设施，或设立奖学金时。人们不应该忘记感谢之心：即自己成功是因为家属、亲戚以及恩师和朋友的支援和鼓励，同时、故乡人们都为自己成功而感到高兴、这样的场景就是“衣锦还乡”。

〈日本のことわざ〉故郷へ錦を飾る

「故郷へ錦を飾る」、または単に「錦を飾る」とも言います。「立身出世して故郷に帰る」という意味のことわざです。日本で技術・技能等を学び母国へ帰ってから日本で身に付けたことを活かして活躍することを期待されている研修生・技能実習生の皆さんにとって、まさにぴったりのことわざなのではないでしょうか。

錦とは様々な色の糸で地色と文様を織った織物のことで、京都の伝統の織物「西陣織（にしじんおり）」の着物の帯などに代表されるものです。美しく豪華な織物である「錦」は、転じて美しいもの、立派なものをたとえていう言葉ともなっており、「紅葉（もみじ）の錦」と言えば一面紅葉した様子を指し、「錦をまとう」は必ずしも錦そのものを着るという意味ではなく「美しく立派な服を着る」という意味になります。

「故郷へ錦を飾る」と言えば、「錦の着物で着飾って故郷に帰る」という意味が転じて「成功して戻る」という意味になるわけで、単に高価な服を着て帰るとか、たくさんのお金を持ち帰るということではありません。このことわざがよく使われるのは、高校野球のチームが甲子園大会に出場し、優勝して母校に戻ったり、大相撲の力士が地元の巡業などで活躍した時や、出世した人が自分の得た財で故郷に病院を建てたり、恵まれない人のための施設を寄付したり、奨学金を出したり、といった場合でしょうか。自分が成功することができたのは、家族や親戚、また恩師や友人などの支えや励ましがあつたからだという感謝の心を忘れず、また、故郷の人々みんなが自分の成功を喜んでくれる、そのような状態こそが「故郷へ錦を飾った」といわれるものです。